

光・量子飛躍フラッグシッププログラム（Q-LEAP） ステージゲート評価結果（8年目）

1. 研究開発課題名

量子ソフトウェア

2. 研究代表者名（所属機関名・職名は評価時点）

学校法人慶應義塾 慶應義塾大学 理工学部 教授

山本 直樹

3. ステージゲート評価結果（8年目）

○結果

8年目ステージゲート通過とする

○評点

A：評価項目を満たしており、課題の継続実施が妥当である

○総合評価コメント

社会実装という観点から実に多業種の企業が参画し、IBM 社の量子コンピュータ実機を活用してユースケースの開発を進めるという点において優れた成果を出している。また、量子アルゴリズム・ソフトウェア開発の基盤となる学術的成果も多数創出されており、ステージゲート目標を達成している。複数の企業が大学において協調するというオープンイノベーションのあり方を提示しているという点も高く評価できる。そのため継続と判断する。

一方、テーマの種類と数が多いだけに、個別技術ごとの分類にこだわると、全体としての特徴や目指すところが不明瞭となる。進化が急速な分野であるからこそ、量子コンピュータハードウェアの進展状況に合わせてプロジェクト全体としての構想や社会的意義を常に提示し、それぞれのテーマが社会に与える影響や産業界における波及効果等を明瞭に提示する工夫が求められる。代表者が研究分担者として参画している Q-LEAP 量子 AI フラッグシップとの相乗効果や違いの明確化も求められる。

以上